

# 旭座人形芝居

福岡県指定無形民俗文化財

福岡県  
八女市

## ■ 定期公演（一般公開）案内

- 本公演 11月3日(祝) ※年度により臨時公演開催の場合があります
- 座渡し神事 1月20日(初光り)  
7月15日(翁渡し)
- 芸題履歴
  - 「寿式三番叟」「翁渡し」 ○「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段・十郎兵衛住家の段
  - 「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段 ○「絵本太功記」尻ヶ崎の段
  - 「鬼一法眼三略巻」五条橋の段 ○「壹坂観音靈験記」山の段
  - 「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段 ○「源平布引滝」 ○「賤ヶ嶽七本槍」
  - 「神靈矢口渡」 ○「玉藻前俎袂」 ○「播州皿屋舗」
  - 「朝顔日記」宿屋の段 ○「伽藍鏡」 ○「大江山」

## ■ 交通案内



### アクセス

鹿児島本線 JR 羽犬塚駅より約 25km  
堀川バス 羽犬塚乗車、黒木下車、タクシー乗り継ぎ約 7km  
九州自動車道 八女 IC より約 23km 約 50 分  
広川 IC より約 23km 約 50 分

### 編集・発行

八女市教育委員会 文化課  
〒834-8585 福岡県八女市本町647  
TEL / 0943-23-1982 (直通)  
FAX / 0943-24-4331  
<http://www.city.yame.fukuoka.jp/>



## ■ 建築概要



旭座人形芝居会館（外観）

### 平面図

- (S:1/400)
- ① 客席 約80人収容
  - ② 舞台 「舟底・二重」構造  
見付け4間、奥4間半
  - ③ 収藏室
  - ④ 楽屋
  - ⑤ 湯沸室
  - ⑥ 洗面所
  - ⑦ 浴室
  - ⑧ トイレ(附 身障者用)



### ■ 農林水産省補助事業（平成10年度山村振興等農林漁業特別対策事業） 郵政省簡易保険融資施設

- 事業主体 黒木町
- 事業量 木造棟瓦葺一部鉄骨造平屋建
- 建築面積 215 m<sup>2</sup>
- 事業費 33,726 (千円)
- 竣工 平成 11年 6月 30日
- 柿落し公演 平成 11年 11月 21日

## ■ 山村文化の継承は脈々と



伝統を守り育てる「旭座人形芝居保存会」のみなさん

## ■ 先祖から受け継いだ財産の数々



使い込まれた淨瑠璃本(床本)

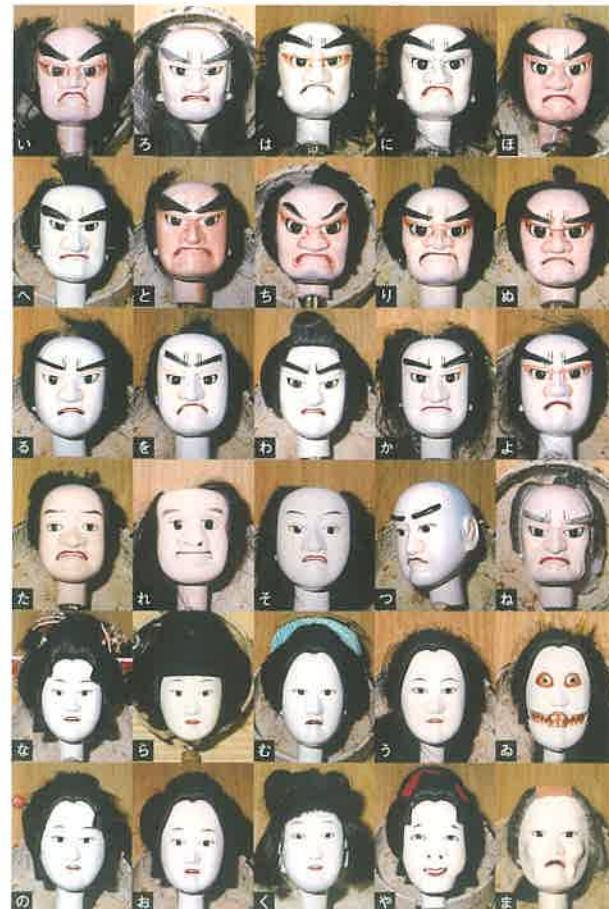


収蔵室の箪笥で出番を待つ首

## 古箋 一旭座人形芝居保存会 蔵一

い 文七(光秀 弁慶)	ろ 弥陀六	は 一役 ▶	に (面落ち)	ほ 赤肉(竹次郎人形)
く 條拂遣使(久吉)	と 檢非遣使	ち 大団七	り 団七	ぬ 団七
る 白内(竹次郎人形)	を 源太(信太郎)	わ 源太	か 源太	よ 源太
た 飛脚	れ 嘘兵衛	そ 若男(十次郎)	つ 僧(沢市)	ね 大舅
な 娘(初菊)	ら 老女形(綱の君)	む 老女形(お弓)	う ガブ ▶	ふ ガブ(変)
の 娘(信夫)	お 娘	く 娘(お鶴)	や お福	ま 婆(暁月)

※「初代 天狗久」作品 い・な・う・あ・ガ・ザ・ミ (1対)



## ■ 神々と触れ合う一瞬



「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段



「寿式三番叟」



「鬼一法眼三略巻」五条橋の段



「絵本太功記」尼ヶ崎の段



## ■ 激流に棹さして 一旭座人形芝居の由来と歴史ー

「旭座」の起源は、1872(明治5)年ごろ、笠原地区の鰐八集落に淨瑠璃の名人が現れ、祝いの座で、ひょうたんや徳利を人形に見立てて操ったことに由来します。

以後、熊本県山鹿・大庭座、大分県日田・流行座、福岡県朝倉郡・恵比須座から首を護り受けで芸題を増やし、農閑期には八女茶のPRも兼ねて県内各地へ興行にまわりました。1907(明治40)年には旭日に大鷹をデザインした六間幅の引幕の寄贈を受け、地名に由来する「鰐八座」から「旭座」と呼ばれるようになりました。また、戦中戦後の衰亡の危機を乗り越えて、昭和30年8月5日、福岡県無形文化財第4号指定に際し正式名称とし、8戸による保存会も結成され(現5戸)、家族ぐるみで継承してきました。

平成11年、念願の文楽専用施設の完成を機に門戸を開き、都市部へ向�新たな情報を発信し交流の輪を広げています。

## ■ 悠久の時間を刻む 文楽の杜・笠原



「旭座人形芝居の三番叟と首(かしら)」二紀会委員 友添泰典(油彩M8号)

日本有数のお茶処として知られ、八女茶発祥の地と伝えられる靈巖寺<sup>1)</sup>を懷に抱き、笠原川の並木橋から緑濃さ谷川の流れに沿って遡ると、80人余りの小さな山村があります。ここが人形淨瑠璃を脈々と守り続けた鰐八(わにばち)集落です。

中山間特有の棚田も精農家の人々により連绵と維持され、どこか懐かしい日本の文化的景観をとどめています。

春・菜の花が咲き競い、初夏・川面に映える源氏ボタルにしばしを忘れ、秋・黄金の稲穂が頭を垂れ、冬・山々の雪景色が静寂の境地にいざないます。

これらの四季折々の風土からは、米・茶・苺など旬の恵みを受け、わたしたちの食卓を彩ります。

註1)応永30(1423)年、栄林周瑞禪師の発願により創建された臨濟宗妙心寺派の古刹。明國より持参した茶の実を鹿子尾村庄屋の遠祖・松尾太郎五郎久家に分け与え、製茶の技法を伝授したことに始まるといわれます。



遺徳が傳ばれる茶祖・栄林周瑞禪師像

## ■ 文楽のかたち

「文楽(ぶんらく)」は、わが国の伝統的な人形による演劇です。

テーマは主に、日本人の忠義・義理人情・愛憎といった人間の葛藤に焦点をあて、これらの物語に節をつけて語る「淨瑠璃(じょうるり)」、それを演奏する「三味線(しゃみせん)」、演技をつける「人形操り」の三位一体の芸術です。人形操りは、胴串と右手を操る主遣い(おもづかい)、左手を操る左遣い、足を操る足遣い構成され、1体の木偶(でこ)を3人で操る方法を「文楽様式」と呼びます。

江戸末期になると全国的に淨瑠璃が広まり、旭座も阿波直系の伝統を受け継いでいます。

また文楽の名称は、明治17年、大阪・御靈神社境内に芝居小屋を興し「御靈文楽」と名乗った植村文楽軒に由来します。